

あつまれ! 「線」のあそび

みんなであそぶプログラム 【毎日実施 10:00-4:00】

10時から4時まで、いつでもあそべます。子どもも大人もいっしょに参加します。
館内のいたるところに線のしかけがいっぱい。線からひろがるさまざまな遊びのプログラムに参加しよう!

たべるあそぶプログラム 【日曜日実施 11:00-12:00, 2:00-3:00】

食べることを楽しむプログラムです。
◎「センペー」 対象:子どもと大人 定員:各回6組 受付:各回30分前

あつまるあそぶプログラム 【土・日曜日、祝日実施 2:00-2:30, 3:00-3:30】

家族や友達だけでなく、たくさんの人と一緒に遊べます。
◎「せんのかたち」

特別プログラム 【事前募集】 [1月2日(月)、3日(火) 2:00-4:00]

◎「せんのとりで」 大きな空間いっぱいに、みんなで「せんのとりで」をつくれます。
対象:子どもと大人 ところ:チャレンジタワー

○詳しくは、館内の当日案内をご覧ください。プログラムは予告なく変更することがあります。

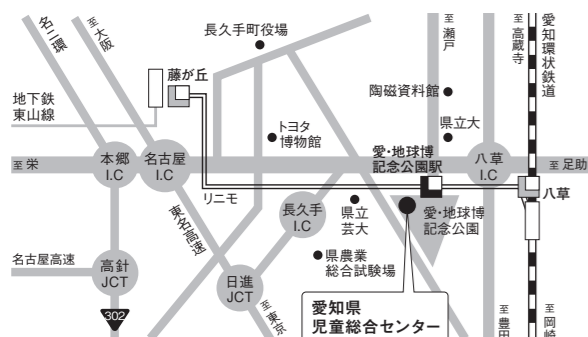
愛知県児童総合センター

〒480-1101 愛知県愛知郡長久手町熊張(愛・地球博記念公園内)
TEL 0561-63-1110 <http://www.acc-aichi.org/>

開館時間 = 9:00 - 17:00 入場料 = 中学生以下無料、その他300円

12月の休館日 = 5, 12, 19, 29 ~ 31日
1月の休館日 = 1, 10, 16, 23, 30日 2月の休館日 = 6, 13, 20, 27日

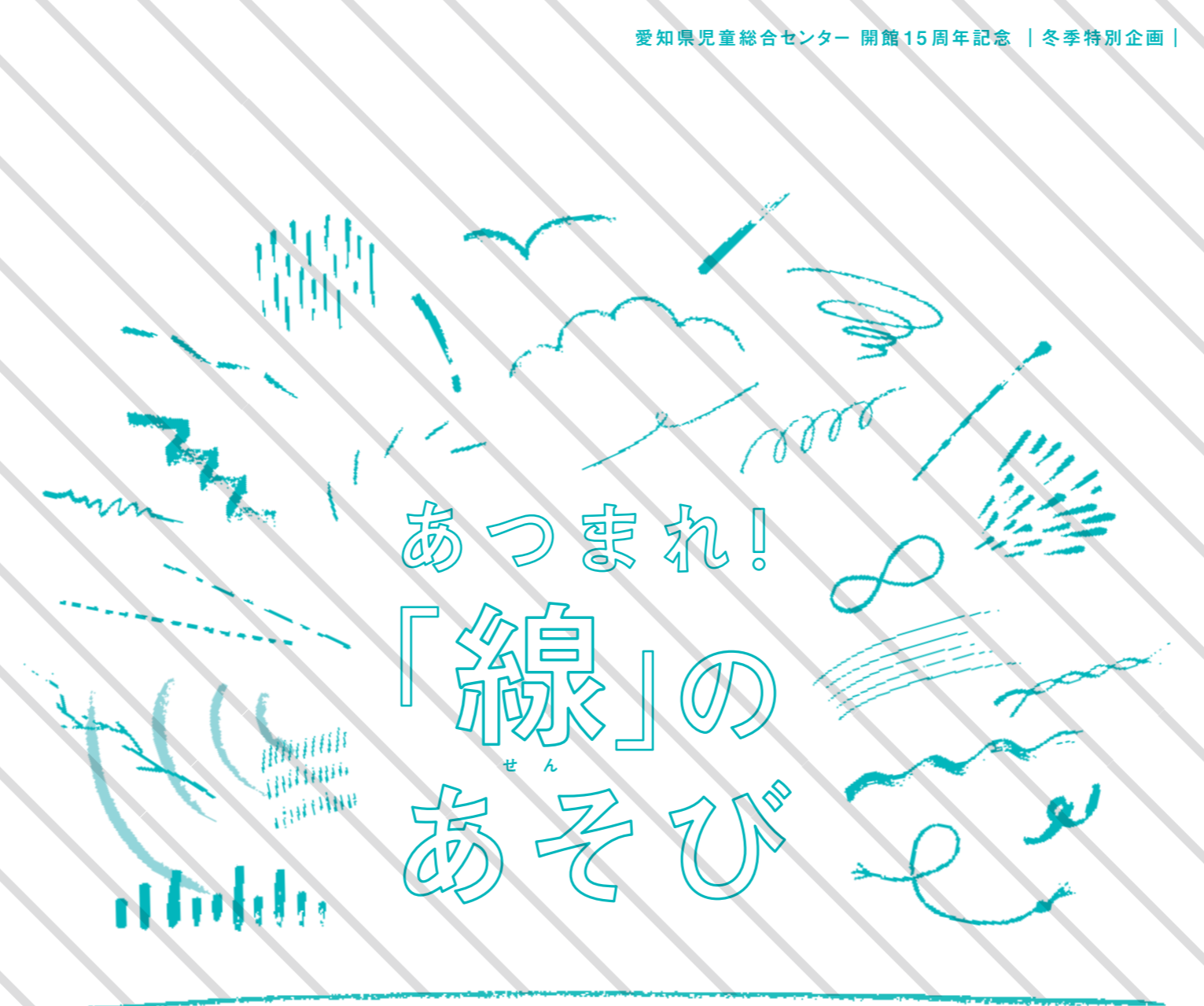
- 公共交通 ... 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から機関でリニモ「愛・地球博記念公園駅」下車
- 車で ... 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから足助方面すぐ(愛・地球博記念公園 北駐車場利用)



愛知県児童総合センターは「遊び」をテーマにした県立大型児童館です。1996年の開館以来、子どもと大人がともに、心と身体をフルに活用して遊ぶことで、新しい気づきや実感できる時間と空間を提供しています。また、遊具や遊びのプログラム開発、よりよい児童環境のためのネットワークづくり、セミナー・研修、調査・資料収集、移動児童館など多岐にわたる活動を行っています。



編集・発行 / 愛知県児童総合センター(財団法人愛知公園協会)



一本の線をひく。たったそれだけで、たくさんの表情が生まれます。
百人いたら100通り、千人いたら1000通り。そこから表現がはじまります。

愛知県児童総合センターでは、これまでに冬季特別企画として、
『○△□~カタチであそぶ』『dot・点~ここからはじまる』を開催してきました。

今回のテーマは『あつまれ!「線」のあそび』です。

「線」をきっかけに、さがす、みつめる、かく、つくる、考える、身体を動かすなど、

いろいろな遊びのプログラムを実施します。

2011.12.17(土) - 2012.1.22(日)

愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)

開館時間 | 9:00 - 17:00 休館日 | 12/19, 29, 30, 31 1/1, 10, 16 入場料 | 中学生以下無料、その他300円
主催 | 愛知県児童総合センター(財団法人愛知公園協会)

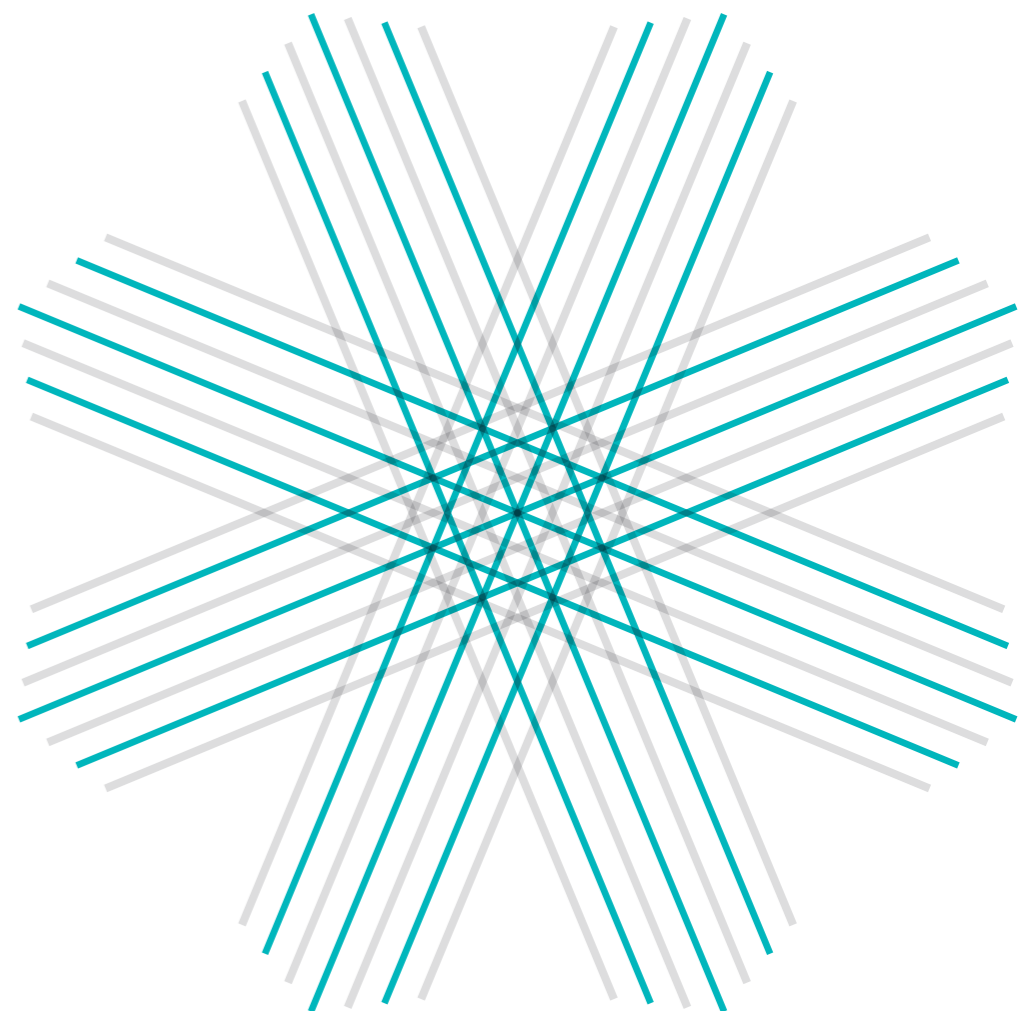
子どもとおとな、ドキドキ発見!

ACC

Aichi Children's Center

レター

News Letter 2011-2012 冬



愛知県児童総合センター開館15周年記念 | 冬季特別企画 |
あつまれ! 「線」のあそび
平成23年度祖父母カアップ事業
「孫とのじかん」
「ひとつながり」の児童総合センターと陶磁資料館
「親子であそぶ! 土・泥・ねんど2011」を共同開催して!
子育てのおはなし / ACCのココがすぎ! / お知らせ



おじいちゃんだからできること
おばあちゃんだからできること
わたしだからできること

平成23年度 祖父母カアップ事業

「孫とのじかん」

…… 祖父母カアップ講座「孫とのじかん」が9月30日(金)・10月5日(水)に開かれました。……

9月30日(金)第1回は、「孫とのじかん～ほんとうに大切なこと～」と題して講義を行いました。臨床心理士の後藤かをりさんをお招きし、「せっかく、孫というすばらしい存在との時間が持てたのだから…」と、これからの「孫とのじかん」についてたくさんのヒントをいただきました。「祖父母は、親とは違う視点でゆったりとながれる時間軸で孫との関わりを楽しむこと」「孫についての心配事は親に任せ、親の仕事を奪わず、親が親になる機会を奪わないこと」「孫に対して、祖父母だから、あなただから、伝えられる大切なことがあること」など…臨床心理士としての立場からの専門的なお話と後藤さんとお孫さんとの関係(距離や関わり方)も交え、わかりやすくお話いただきました。



10月5日(水)第2回の実践では、「ちいさな子どもたちとあそぼう」と題して、親子であそぶトコトコプログラム*「えほんであそぶ」に参加しました。来館した親子と絵本を身体いっぱい楽しんだ後、おじいちゃんとおばあちゃんには「絵本屋さん」にハンシンしてもらいました。とってもとっても優しいまなざしに「絵本屋さん」です。ちいさなお客さんが「絵本屋さん」のおひざにちょこんと座ったり、「絵本屋さん」の読み聞かせを楽しむ親子の姿がみられたり、「絵本屋さん」とのやりとりを楽しむ親子の姿もみられました。お母さんも子どもたちもおじいちゃん・おばあちゃんたちもみんなとってもいい顔をしていました。

今回の2回連続の講座は、わらべうたや手遊びなどの技術を取得するのではなく、こうしなければいけないとある考えを押し付けるものでもありません。参加者の方が「自分の持っている祖父母『力』」について考えるきっかけをつくりたい…そこから「自分でできること」は何かを考え、それは祖父母という役割を得たからこそ「できること」であり、歳を重ねてきたからこそ「できること」であり、あなただから「できること」があると気づいてほしい…ということが、この講座から伝えたいメッセージでした。

*親子であそぶトコトコプログラム：毎週水曜日に未就園の親子を対象とした遊びのプログラムです。詳細は、HPをご覧ください。



“ひとつながり”の児童総合センターと陶磁資料館 —『親子であそぶ!土・泥・ねんど2011』を共同開催して—

この夏、愛知県児童総合センター(以下、センター)の特別企画として『親子であそぶ!土・泥・ねんど2011』が開催されました。この企画はセンターと、私たち愛知県陶磁資料館(以下、資料館)の共同企画で行いました。2008年にも行っており、今回は2回目となります。

外部の私には、センターで「遊び」のプログラムに参加している子どもや大人たちは、未知の遊び(体験)に出会ってドキドキしているように見えます。また、すでに知っていた遊びでも、ドキドキのスケール感が違って、目が「すごい!」と輝き、とても楽しんでいるように見えます。そして同時に、遊びの中に、小さいけれども自分だけの何かを発見し、それを大事に抱えて佇んでいるような姿も見かけます。

私がセンターを初めて訪れたのは1998年ですから、もう10年以上前になりますが、こうした印象はずっと変わりません。

センターで出会う身体的・知的な体験や発見は、私たち資料館で出会うものと同じです。それは現在、アートという言葉で呼ばれるものです。

ですが、センターと資料館の活動は、「児童館」あるいは「資料館」、「美術館」、「博物館」といった外側の看板や分類から、アートとのつながりが分かりにくく、またセンターと資料館のつながりも分かりにくいというのが現状です。加えて、子どもは児童館、美術館などはおとな中心、という認識も根強くあります。

センターの遊びのプログラムは、楽しさの中にアートが持つ純度の高い「おっ!」や、「うわー!」、「何だろう?」があります。一方、資料館の展示室には、やきものの作品が並んでいるだけで、触れるわけでも、そのものが動くわけでもないのですが、作品をじっくり見ると、やはり「おっ!」や、「うわー!」、「何だろう?」があります。私たちはこのつながりを重視し、センターでは「土の

遊び」を、資料館では「やきものを見る」をプログラムとして共同企画を実施したのです。さて、今回新しく「土・泥」で行った特別プログラムのひとつに、センターから資料館まで歩く「土ろろ・ウォーキング」というのがありました。もちろん、ただ歩くだけではなく、センターと資料館のそれぞれでプログラムを行うのですが、その間の歩いている時間が意外なほどに盛り上がりました。

それは1本の透明な円筒状のケースとスコップを持ち、参加者全員でクジをひき、歩きながら順番に思い思いの場所で土を掘って、長さ90センチほどのケースに入れていく、という遊びです。もちろん、これもセンターのスタッフの発案によるものです。

最終的に十数層にも積み重なった土は、ひとつとして同じ色はなく、また、状態も腐葉土から、山砂まじり、そして、べとつく粘土まで、と違っているのです。掘った土を見て触って、みんなが口々に、今のはざらざらでオレンジ色っぽいね、とか、枯葉が混じってる、とか言います。あるいは、道のりの途中にある長久手町と豊田市という土地と土地の境界線を示す標識の下を行きつ戻りつ、「土の上の見えない線」をまたいだりして遊んでいます。

自分たちの最も身近にあるはずの土に対する新しい自分だけの驚き・発見、これこそがセンターの遊びに潜むアートへのつながりなのです。

この遊びを10数回も繰り返すと、長かったはずの資料館までの道のりがあっという間に過ぎてしまいました。

そして、道のりの途中で土についての自分の発見を言葉にし続けた参加者たちは、資料館に着いて展示室へ入り、陶芸作品を見て発見したこと、感じたことを自分の言葉で表現していく「作品鑑賞」に何ら違和感なく入っていきます。

また、その場で見ている陶芸作品とは、自分の手の動きにあわせて自分だけのかたちに変化する粘土(陶土)が焼かれて出来たものだ、ということセンターでの粘土の遊びで、身体感覚で知っています。ですから、資料館での作品鑑賞も、「難しい」や「わからない」ではなく、センターのプログラムと同じく「楽しい!」や「すごい!」がたくさんありました。

資料館からの帰りの私たちの手許には、透明円筒ケースの中に地層のように積み重なった「土のマップ」が完成し残りました。それはあえて言葉にすれば、「土・泥・ねんど」をテーマに繋がる、センターと資料館が、地理的關係だけでなく活動内容においても「ひとつながり」になっているということを目に見える形で表したとも言えるでしょう。参加者の皆さんにも自然に理解していただけたのでは、と思っています。

児童館である児童総合センターと美術館であり博物館である陶磁資料館との間に「垣根」はないのです。子どもも、大人も、それぞれを自在に行き来して、身体と心を育てていただきたいと願っています。

愛知県陶磁資料館 佐藤一信

「・・・しなさい」の前にある親の気持ち

赤ちゃんのころは、子どもは一方的に要求をする側で、親はその要求をかなえる方という関係ですが、子どもたちが大きくなるにつれて、親も子どもにいろいろなことを要求するようになります。

「ご飯は、たくさん食べなさい」「野菜も食べなさい」「スプーンで食べなさい」「こぼさないで」「お片付けしなさい」「触っちゃダメ」「早くしなさい」「ちょっと待って」…。書き出したらさらにありませんね。特に、最後の2つは極めつけ。

子どもたちが社会で暮らしていくためのいろいろな技を身につけていく過程にどれも必要なことです。子どもたちは、大好きなお父さんやお母さんの言うことなので、できるだけ(眠るときや、もういっばいっばいのときなどを除いて)親の期待に沿うように、親の喜ぶ顔を見たいので、けなげに従おうとします。(わが子だと、案外このけなげが見えないものです。ちよつとよその子を観察してみてください。きっとそう感じますよ。)

6 臨床心理士 後藤かをり

親は、いろいろな「・・・しなさい」の前に必ず「あなたは、パパやママの大事な子、生まれてきてくれてありがとう、こんなに大きくなってくれてありがとう」という気持ちを持っていきます。その気持ちを踏まえて「・・・しなさい」と言っているつもりです。けれどもたいいての場合、「この」の中は省略され、残念なことに子どもたちには通じていません。

親の方も、一日口うるさく「・・・しなさい」ばかり言っていると疲れてしまうし、そんな自分がいやになつてきちゃいますよね。

ときどき、「」の中を言葉にして言ってみよう、ゆつたりとしたときに。親も子も楽になれます。

そして、「お約束の時間に遅れそうだから、今日は超特急で靴はいてね。お友達待つてるよ」と、ちよつと言葉を添え、親の要求に従ってくれたら、「よし」ではなく、「ありがとう」とか「大きくなったね」「かっこいい!」と子どもの成長を喜ぶ言葉や表情を贈りましょう。

ACCのココがすき!

トコトコプログラム
「つみきであそぶ」に参加していた親子にインタビュー

たくさんのお絵本を見るのが楽しい!
木のボールプールやつみきが大好き!
飯田 唯乃さん

広々としたスペースで思いっきり身体を動かせるのが好き!
安福 和司くん

いろいろな遊び、いろいろな人に接して嬉しそうにしている娘を見るのが私もうれいなんです。次の日、大きく成長しています!!
飯田 由美子さん(名古屋市)

木のおもちゃなど家にはないおもちゃをたくさん子どもに触れさせる事ができるところが気に入っています。つみきは、私もハマってます!
安福 洋子さん(名古屋市)

お知らせ

来館500万人達成

1996年7月に開館した「愛知県児童総合センター」もおかげさまで9月25日(日曜日)入館500万人目のご家族をお迎えすることができました。これまでに来館いただいた子どもたちや大人、さまざまな方面から応援していただいた多くの方々に心より感謝いたします。今後も「あそび」をとおして、子どもたちや子どもを取り巻く方々が元気になれるよう幅広い活動をしていきます。変わらぬご支援をお願いします。

「移動児童館・ゆめたま号」
～2012年1月-3月の開催地決定～

児童総合センターの遊びを「ゆめたま号」に乗せて児童館へ運び、現地のスタッフも加わって地域の子どもと大人と一緒に遊ぼうプログラムです。遊びをとおして、たくさんのお会いを楽しみにしています。

場所：コラボラボ
日時：毎月第3日曜日 13:30～15:30
対象：お父さんと子ども(5歳ぐらいから)
受付：開催当日 30分前から

○開催地
1/12(木) 一宮市 / 黒田児童館
1/21(土) 愛西市 / 永和田地区防災コミュニティセンター(間・永和児童館)
1/26(木) あま市 / 基目寺中央児童館
2/9(木) 小牧市 / 小牧中部公民館(間・小牧市児童センター)
2/23(木) 春日井市 / 子育て子育て総合支援館
3/10(土) 東浦町 / ひがしうら総合子育て支援センター
※参加につきましては、各施設へお問い合わせください。

来館500万人達成

高橋さんご家族